

第21回 佐賀県地域年金事業運営調整会議 議事概要

開催日時：令和6年8月7日（水）10時00分～12時00分

開催場所：グランデはがくれ フラワーホールC（佐賀市）対面型式

出席者：委員 13名中10名出席

オブザーバー：県内年金事務所長2名（唐津、武雄）

議 事

1. 開会

2. あいさつ

- ・日本年金機構 佐賀年金事務所 山口 一成 所長
- ・佐賀県地域年金事業運営調整会議 平部 康子 委員長

3. 委員等紹介

4. 議題

議題 1 令和5年度事業実施結果報告及び県内事業状況報告

資料2 第21回地域年金事業運営調整会議資料により令和5年度の取組実施状況について説明し、確認いただいた。

議題 2 令和6年度事業実施計画

資料2 第21回地域年金事業運営調整会議資料の「令和6年度事業計画」により説明。

各委員より、議題1及び議題2に関する質問・意見・要望をいただき、今後の取組に活かしていくこととした。

【委員からの主なご意見・ご質問等】

○（委員）

・年金セミナーについて、現在、学校行事やカリキュラム等の事情により、年金セミナーの開催時期が年度後半に集中している。厚生労働省と日本年金機構で取り組んでいる「エッセイ」募集を考えると、年金セミナーを受けた上で年金の事を考えていただくことで、エッセイへの応募にも繋がると思慮するため、セミナーの参考資料として提供いただきたいし、開催時期も検討いただければと思う。

（委員）

・現在は学校行事も多く、授業のカリキュラムもあるため、そちらを優先せざる

を得ない状況。また、今年度は特に佐賀国スポもありボランティアで参加しているため、夏休みも短くしていることもあり厳しい状況である。

(委員)

・学校側のスケジュール上、どうしても入試が終わってからになってしまうが、ある学校では年金に興味を示しており、早期の開催も検討いただいている。

(事務局)

・「エッセイ」については、同年代の作品を通して考え方や思い等を感じて頂けると思うので、今後年金セミナーで活用するよう検討する。

○ (委員)

・ハローワークとの連携について、県内 3 事務所における求職者や失業者に対する年金制度説明会の開催状況をお聞かせ願いたい。

(事務局)

・佐賀年金事務所管内においては、ハローワーク佐賀で毎週対面による説明会の時間をいただいている。鳥栖については、遠方ということもあり、資料の配付という形で周知を行っている。

・唐津年金事務所管内においては、ハローワーク唐津で毎週午前午後の 2 回に分けて参加し制度説明会とねんきんネットへの登録案内を併せて行っている。

・武雄年金事務所管内においては、ハローワーク武雄が近隣ということもあり、毎週対面による説明会を実施させていただき、国民年金の手続き（免除等）が必要なお客様については、そのまま年金事務所へ案内する等の連携を図っております。

○ (委員)

・現在増加傾向にあるフリーランスの方や個人で起業される方等の対象者や収納率は把握出来るのか。

(事務局)

・実際の数値自体は出ていないが考え方として、学生であれば学特申請をされている方は在学期間が分かるので、それ以外の国民年金加入者が大卒の対象者として把握している。その対象者に対しては当然納付勧奨を行い収納率もそんなに悪くないが、問題は 25 歳から 30 歳のカテゴリーの納付率が非常に悪いため、そこへのアプローチ等が今後の課題であると考えている。

○ (委員)

・求職活動に 70 代や 80 代の方など高齢層が増えており年金の事とか健康保険の事とかを気にされる方が多い。また、子育てしながら就職活動を行っている方も、扶養に入ったままの制限内で働いた方が良いのか、どのような働き方が良いのかと悩まれる方が非常に増えている。ハローワークでの説明会で年金制度の事をお話しするが、プロでは無いので間違った案内をしていないか不安がある。も

し可能であれば、関係機関にご協力頂きながらブラッシュアップ出来たら有難い
と思っている。

(事務局)

・現在、各機関が各々セミナーなり制度説明会なりを開催していると思うが、お互い協力し合って行っていけばブラッシュアップに繋がると考える。機構側からだけではなく、双方協力依頼等を発信しながら進められたらと思うので、今後検討して参りたい。

○ (委員)

・令和 6 年度の重点取組の一つに、若年層への制度周知を図ると記載があるが、この地域年金事業運営調整会議に若年層の代表とかを参加させる考えはあるか。

(事務局)

・地域年金事業運営調整会議につきましては、開催の頻度、会議の規模、委員の選定等を本部の方でも検討している段階である。現在のこのメンバーで話すことも大変重要だと思っているが、オブザーバーとして高校生や大学生などを参加させることも有意義であると考えてるので、こういった声を提言していきたいと思う。

○ (委員)

・他のいくつかの県で聞いた話したが、大学のキャンパスをお借りして年金相談を行い、学特の申請に繋げるなど効果的な取り組みだと感じる。佐賀県では今のところそういった取り組みは無いと思うので、今後検討してみてはどうか。

(事務局)

・佐賀県としては、まず大学での年金セミナーの回数を増やすことが必要だろうと考えている。大学キャンパスで年金相談として呼び込みをした方が良いのか、セミナーが終わった後の相談という形で行った方が良いのかと考えた時に、現時点では後者だろうと判断している。

○ (委員)

・年金セミナーにおける生徒からのアンケート結果を見ると、年金制度の必要性は分かるが、今後どうなるか分からないため安全性を説明してほしいとの回答が多い。この年金セミナーを活用し、公的年金の安全性をもっとアピールしてほしい。

(事務局)

・年金セミナーを通して、公的年金の安全性について理解を得られるよう努力致します。